

単価合意に問題なし

—— 国交省

国土交通省は31日、従来、公共工事の予定価格算出に使っていた積み上げ方式から、歩掛りを用いない「ユニットプライス型積算方式」への転換に向け、平成16年12月から実施していた試行結果をまとめた。また、同省は17年度を同方式の習熟期とし、試行件数を拡大する。

ユニットプライス型積算方式による工事を受注した企業アンケートによると、単価の算定が従来よりスムーズに行えたかどうかの質問に対し、変わらないと答えたのが半数で、残り半数はやや手間がかかると回答。単価合意協議については、特に問題もなく、協議で決定した内容(単価)も、ほとんどの企業が満足できたと回答した。

同方式は、公共事業の全てのプロセスをコストの観点から見直す「コスト構造改革」の取り組みの一つで、平成16年12月から、同省直轄の新設舗装工事で試行を開始していた。

従来の積み上げ方式との違いは、従来の歩掛かりや労務費、資材単価などを積み上げる方式に対し、過去の入札実績や積算実績をデータベース(DB)化したものから、1㎡あたりのユニット単価を決め、それに施工延長などの数量を掛け合わせ積算するもの。

例えば、ボックスカルバート工の場合、従来は、鉄筋工、型枠工、コンクリート工などの工種ごとに材料費や歩掛、労務費、

数量などから単価を算出し、諸経費を足して積算していた。しかし、同方式によるとボックスカルバートの1mあたりの単価の平均値をDBから出し、施工延長を掛け合わせ積算する。

契約の流れでは、受・発注者間が請負代金額の総額で契約をした後に、ユニット区分ごとに単価について合意を行い、契約上の事務手続きを円滑に実施するとともに、以降の積算単価の改訂の基礎データとする。

同方式により、発注者は積算業務が簡素化。受注者にとっては、発注者が施工のプロセスを示さないため、受注者の技術力の活用や新工法の採用といった創意工夫の意欲が向上する。

一方、同省は平成17年度を制度の浸透と同方式の習熟期として試行件数を拡大。各事務所1件を目安に同方式による工事を発注する。

平成17年 5月31日
国 土 交 通 省

ユニットプライス型積算方式の試行

国土交通省では、従来、公共工事の予定価格算定に用いていた「積み上げ方式」から歩掛を用いない「ユニットプライス型積算方式」への転換に向けて、平成16年度から直轄の新設の舗装工事を対象にユニットプライス型積算方式の試行を実施しています。

この度、平成16年度試行工事について工事契約後に単価合意を行うまでのプロセスのフォローアップ結果をとりまとめました。

また、平成17年度においては、制度の浸透、ユニットプライス型積算方式の習熟の観点から、試行件数を拡大して（参考：各地方出先事務所1件を目安）試行を実施します。

ユニットプライス型積算方式は、現在取組んでいる、公共事業の全てのプロセスをコストの観点から見直す『コスト構造改革』の取り組みの一つである『「積み上げ方式」から歩掛を用いない「施工単価方式」への積算体系の転換に向けた取り組み』であり、平成16年12月から直轄の新設の舗装工事を対象に一部の工事で試行を実施しています。

なお、ユニットプライス型積算方式は、発注者がユニットプライス（請負代金の総額を構成する基本区分であるユニット区分毎に設定された単価）を用いて積算を行うものであり、積算価格の的確性・市場性の向上、工事目的物と価格との関係の明確化、契約上の協議の円滑化、請負者の有する技術力の活用促進、積算業務の効率化等を図ることを目指すものです。

また、本方式においては、発注者と請負者が請負代金額の総額で契約を締結した後、ユニット区分毎の単価について合意を行うことにより、契約上の事務手続の円滑化を図るとともに、以降の積算単価の改訂の基礎データとするものです。

この度、平成16年度試行工事について工事契約後に単価合意を行うまでのプロセスのフォローアップを実施し、別紙ー1「ユニットプライス型積算方式試行工事フォローアップ調査結果」のとおり結果をとりまとめました。

また、平成17年度においては、制度の浸透、ユニットプライス型積算方式の習熟の観点から、試行件数を拡大して（参考：各地方出先事務所1件を目安）試行を実施します。（別紙ー2参照）

<問合せ先>

国土交通省 大臣官房 技術調査課

工事監視官 宮武 晃司 TEL: (03) 5253-8111（内線22353）
直通：(03) 5253-8221

国土交通省 大臣官房 地方課

課長補佐 長福 知宏 TEL: (03) 5253-8111（内線21962）

ユニットプライス型積算方式の概要

- I. 発注者と受注者（元請企業）間の契約を基本とします。
- II. 工種単位で労務費、材料費、機械経費、および諸経費込みの取引価格（合意単価）を使用します。
- III. 同一工種の実績のデータ（合意単価）を蓄積・分析して、積算に使用します。
- IV. 現状では、全ての工種でユニットプライスを設定することは困難であるため、見積方式もしくは現行の積算基準を併用します。
- V. ユニットプライスの動向を監視し、妥当性の検証を行い、必要に応じて補正するシステムを導入します。

対象工事

○H17年度の試行は、各地方出先事務所1件を目安に直轄の舗装工事（新設）を対象に試行を実施します。

試行工事（予定）

○別紙－2「試行予定工事一覧表」の工事について、平成17年度に試行を行う予定です。

現行積み上げ方式とユニットプライス型積算方式の違い

項目	現行積算方式	ユニットプライス型積算方式
契約方法	総価契約方式	総価契約単価合意方式
最低単価単位	資材費・労務費・機械損料が基本	工種ごとの施工費が基本
間接費	直接工事費とは別計上	一部直接工事費と同じユニットに計上
施工プロセス	想定した工法を示す	想定した工法を示さない
発注形態への対応	仕様規定発注に適用	仕様規定発注、性能規定発注の双方に適用
物価変動	最新の物価を採用	係数で処理

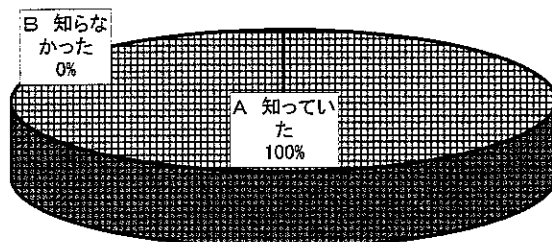
ユニットプライス型積算方式 試行工事
フォローアップ調査結果

受注者フォローアップ調査結果(単価協議合意まで)

I 試行について

【設問】

Q.本工事が本方式の試行工事現場と知っていましたか
以後「本方式」=ユニットプライス型積算方式 「現行方式」=現行積算(積上)方式

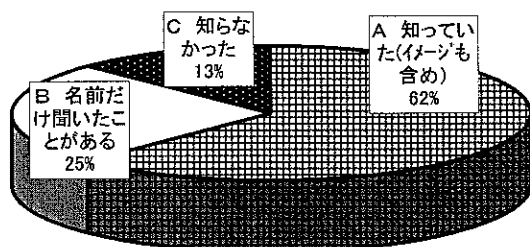


【具体的な意見他】

	受注者側
A 知っていた	8
B 知らなかった	0
計	8

【設問】

Q 本方式の具体的な内容を知っていましたか



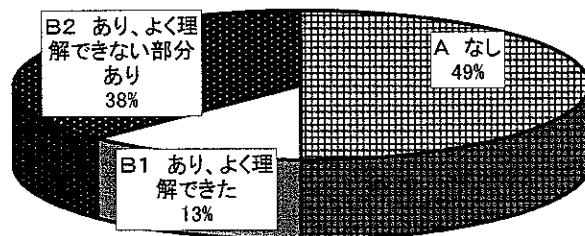
【具体的な意見他】

・営業サイトであれば、説明会等により内容も含め知っているが、現場サイトでは内容までは知っているケースは少ない(A)

	受注者側
A 知っていた(イメージも含め)	5
B 名前だけ聞いたことがある	2
C 知らなかった	1
計	8

【設問】

Q 本方式の実施にあたり、「実施要領」等の提示や説明等はありませんでしたか。また「実施要領」等により本方式を理解することができましたか。



【具体的な意見他】

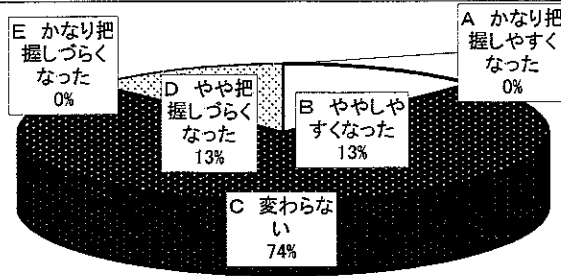
・社内勉強会を落札後、研修会で実施理解を深めた(A)
・ホームページから得た情報で理解した(B1)
・「ユニット積算基準」の取得が遅れ、ユニットに含まれる間接費率について理解できないところもあった(B2)
・現地の取り扱い等による数量変更の場合とそれ以外の大幅な数量変更の場合で単価の取扱が異なっているが、その境が十分に理解できないところがある(B2)
・DID区間等これまで間接費割増が行われていた部分について、ユニットプライスの場合どうなるのか不明な部分がある(B2)

	受注者側
A なし	4
B1 あり、よく理解できた	1
B2 あり、よく理解できない部分あり	3
計	8

Ⅱ 当初積算(見積)について

【設問】

Q 現場説明での設計図書関係(ユニットプライス規定集の提示等)から、現行積算に比べ、当該工事の概略が把握しやすくなりましたか



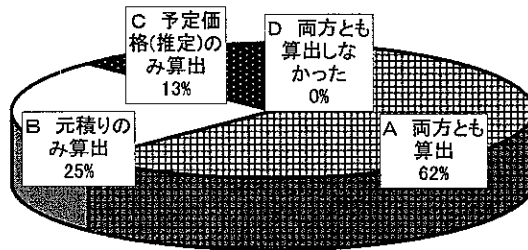
【具体的な意見】

・提示された工事数量総括表において、プライス条件・プライス条件区分が明記されているため、一目で内容が把握、理解しやすくなった(B)

	受注者側
A かなり把握しやすくなった	0
B やや把握しやすくなった	1
C 変わらない	6
D やや把握しづらくなった	1
E かなり把握しづらくなった	0
計	8

【設問】

Q 元積り(=受注者の見積積算。下請見積や過去の実績を根拠とする)や予定価格の算出(推定)を行いましたか

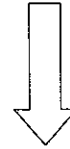


【具体的な意見】

・この時期は、営業サイドも繁忙期で元積りは実施せず、予定価格の類推のみにより入札を行った(C)

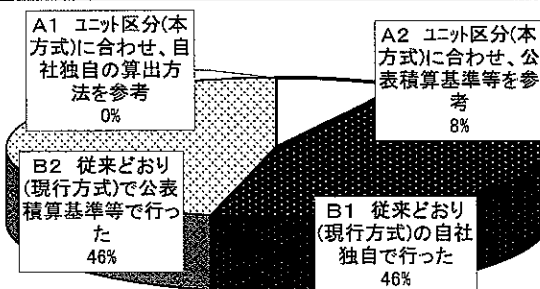
	受注者側
A 両方とも算出	5
B 元積りのみ算出	2
C 予定価格(推定)のみ算出	1
D 両方とも算出しなかった	0
計	8

- A 両方とも算出 5件
元積り→すべて下表B1と回答
予定価格→すべて下表B2と回答
- B 元積りのみ算出 2件
1件がB1と回答
1件がB2と回答
- C 予定価格(推定)のみ算出 1件
A2と回答



【設問】

Q 元積りや予定価格の算出は、本方式によるユニット区分に合わせて行いましたか(複数回答含む)



【具体的な意見】

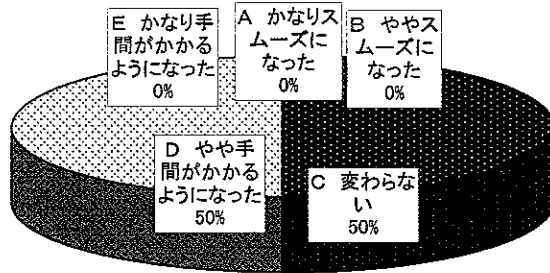
・ユニットの直工部分は、これまで通りの積み上げにより算出し、直工ユニットに含まれる間接費分は、ユニット積算基準に記載の率値より計算し、(直工×1.26)によりユニット単価を算出(A2)

複数回答含む	受注者側
A1 ユニット区分(本方式)に合わせ、自社独自の算出方法を参考	0
A2 ユニット区分(本方式)に合わせ、公表積算基準等を参考	1
B1 従来どおり(現行方式)の自社独自で行った	6
B2 従来どおり(現行方式)で公表積算基準等で行った	6
計	13

Ⅱ 当初積算(見積)について

【設問】

Q 単価の算定(チェック)は、従来に比べスムーズに行えましたか



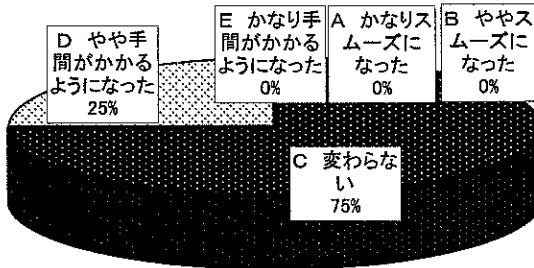
【具体的な意見】

・ユニット単価を算出する際の間接費分の計上に手間がかかった(D)

	受注者側
A かなりスムーズになった	0
B ややスムーズになった	0
C 変わらない	4
D やや手間がかかるようになった	4
E かなり手間がかかるようになった	0
計	8

【設問】

Q 元積りや予定価格の算出は、従来に比べスムーズに行えましたか



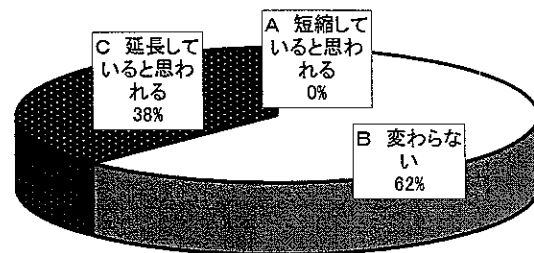
【具体的な意見】

・間接費の計上方法に手間がかかった(D)

	受注者側
A かなりスムーズになった	0
B ややスムーズになった	0
C 変わらない	6
D やや手間がかかるようになった	2
E かなり手間がかかるようになった	0
計	8

【設問】

Q 元積りや予定価格の算出時間は、従来と比べ短縮していると思いますか



【具体的な意見】

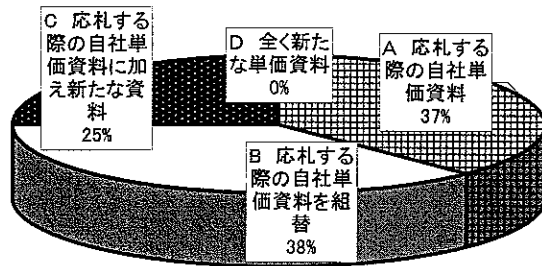
・現行積み上げ後、ユニットにするのに時間がかかった(C)
・今後ユニットに合わせたデータ収集を社内で行っていく予定(B)

	受注者側
A 短縮していると思われる	0
B 変わらない	5
C 延長していると思われる	3
計	8

Ⅲ 当初単価合意協議について

【設問】

Q 協議単価(ユニット請負代金内訳書)を作成する際の単価資料は、



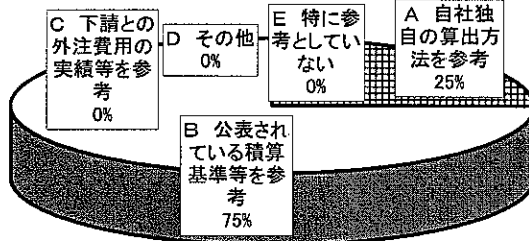
	受注者側
A 応れする際の自社単価資料	3
B 応れする際の自社単価資料を組替	3
C 応れする際の自社単価資料に加え新たな資料	2
D 全く新たな単価資料	0
計	8

【具体的な意見】

・直工ユニットに含まれる間接費分の算出計算資料を新たに作成(C)

【設問】

Q 協議単価(ユニット区分に合わせた経費込み)の作成時に何を参考としましたか



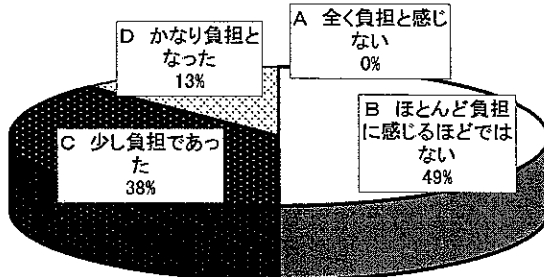
	受注者側
A 自社独自の算出方法を参考	2
B 公表されている積算基準等を参考	6
C 下請との外注費用の実績等を参考	0
D その他	0
E 特に参考としていない	0
計	8

【具体的な意見】

・ユニットプライス積算基準の率値を参考にした(B)

【設問】

Q 当初の単価合意協議は負担になりましたか



	受注者側
A 全く負担と感じない	0
B ほとんど負担に感じるほどではない	4
C 少し負担であった	3
D かなり負担となった	1
計	8

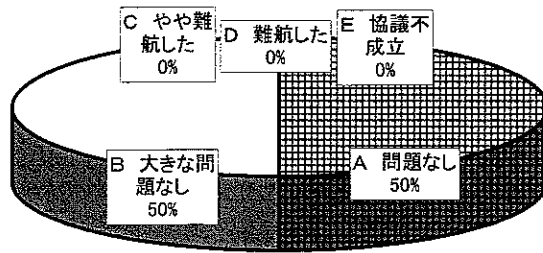
【具体的な意見】

・協議単価の作成に時間を要し、その他これまでも打合せ、電子納品協議等資料作成もあり少し負担増(C)
・単価協議が初めてで内容が分からず負担となったが、慣れれば負担にはならない(D)

Ⅲ 当初単価合意協議について

【設問】

Q 当初単価合意協議の感想は、

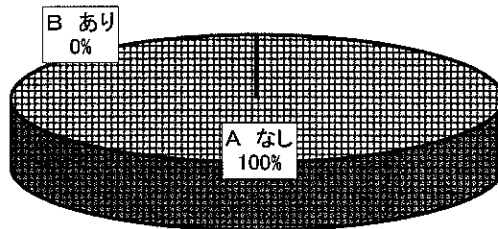


【具体的な意見】

	受注者側
A 問題なし	4
B 大きな問題なし	4
C やや難航した	0
D 難航した	0
E 協議不成立	0
計	8

【設問】

Q 単価協議が難航したユニットプライスはありますか



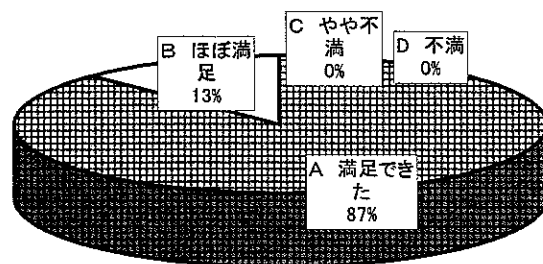
【具体的な意見】

・強いて挙げれば、集水樹・街渠樹(蓋)の単価合意に時間がかかったが、これはグレーティングの材料単価をkg単価で見積ったことが原因と想定される(A)

	受注者側
A なし	8
B あり	0
計	8

【設問】

Q 当初の単価合意協議の「内容・単価」は満足できるものでしたか



【具体的な意見】

・金額の大きい工程での相違はなく協議内容は満足。今後、設計変更協議に加え変更時単価協議もあることから、提出書類の簡素化をお願いします(A)
 ・単価協議から合意に至るまでの時間を短縮してほしい。(月末合意だとその月の履行報告提出が間に合わない)(A)
 ・JHにおいては甲単価を優先され納得できないケースもあるが、乙単価を尊重してもらえることは良い。下請に見積依頼しても繁忙期の場合概算見積となりがちでそれを参考に単価設定を行うことになる(B)
 ・今後変更時においても単価協議合意して実施していくことは歓迎できるが、工期が迫っている場合協議合意の手間(時間)が十分取れるか不安(A)

	受注者側
A 満足できた	7
B ほぼ満足	1
C やや不満	0
D 不満	0
計	8

H17年度ユニットプライス型積算方式試行予定工事(新設舗装)一覧表

番号	地整等名	発注事務所名	工事件名	入札方式	発注時期	工事概要
1	東北地整	青森河川国道事務所	妙道路舗装工事	通常指名競争入札	第4四半期	As舗装工 A=8,000m ² 延長 L=800m
2	東北地整	津軽ダム工事事務所	県道付替居森平地区舗装工事	通常指名競争入札	第2四半期	As舗装工 A=2,000m ²
3	東北地整	岩手河川国道事務所	熊堂地区道路舗装工事	工事希望型指名競争入札	第1四半期	As舗装工 A=13,000m ²
4	東北地整	湯沢河川国道事務所	相川道路舗装工事	通常指名競争入札	第2四半期	As舗装工 A=6,000m ² 延長 L=400m 防護柵工 L=800m 立入防止柵工 L=800m 排水工 1式
5	東北地整	仙台河川国道事務所	仙台広幅道路改良舗装工事	公募型指名競争入札	第4四半期	盛土工 V=6,000m ³ As舗装工 A=13,200m ² 歩道工 A=5,200m ² 水路工 L=1,700m 中央分離帯工 L=670m 防護柵工 L=1,500m
6	東北地整	酒田河川国道事務所	新堀地区道路改良舗装工事	工事希望型指名競争入札	第1四半期	道路改良舗装 一式 延長 L=1,100m
7	東北地整	摺上川ダム工事事務所	市道付替烏川・名号線烏川地区舗装工事	通常指名競争入札	第1四半期	As舗装 A=12,000m ²
8	関東地整	首都国道事務所	湾岸千鳥町立体海側舗装工事	工事希望型指名競争入札	第2四半期	橋面舗装工 3,200m ² 車道舗装工 7,000m ² 排水構造物 1式
9	関東地整	高崎河川国道事務所	岩井改良舗装工事	工事希望型指名競争入札	第2四半期	車道舗装工 13,000m ² 、 道路土工 1式、 排水工 1式
10	関東地整	川崎国道事務所	放射34号線舗装工事	公募型指名競争入札	第3四半期	車道舗装(盛土工)3,500m ² 車道舗装(橋面部)3,500m ² 排水工 L=200m
11	関東地整	相武国道事務所	日野バイパス川辺堀之内舗装工事	公募型指名競争入札	第3四半期	車道舗装工 A=約11,000m ² 道路土工 1式 排水工 1式
12	関東地整	大宮国道事務所	狭山地区舗装その4工事	工事希望型指名競争入札	第3四半期	道路土工(掘削)3,100m ³ 残土処理 2000m ³ 舗装工(車道部 AD3, 4000m ² 歩道 部770m ²) 電線共同溝 L=180m 排水構造物 1式 (排水性As合材400t, As合材1800t 透水性As合材60t, RM40 1400m ³ RC40 1600m ³)
13	関東地整	長野国道事務所	上田トンネル舗装工事	通常指名競争入札	第3四半期	コンクリート舗装工:1式(2,500m ²)
14	関東地整	甲府河川国道事務所	青柳改良舗装工事	工事希望型指名競争入札	第4四半期	道路改良 1式 排水工 1式 舗装工 1式
15	北陸地整	高田河川国道事務所	寺・鴨島舗装工事	工事希望型指名競争入札	第1四半期	車道舗装10,700m ² (下層、上層、 基層、中間、表層) 橋面舗装2,500m ² (基層、表層、橋 面防水) EPS設置500m ²
16	北陸地整	長岡国道事務所	豊田橋舗装工事	公募型指名競争入札	第2四半期	橋面舗装1,200m ² (表層、レベ リング)車道舗装8,300m ² (表 層、中間層、基層、路盤工)取付道 路舗装3,500m ² (表層、路盤工)
17	北陸地整	新潟国道事務所	曾和高山舗装工事	公募型指名競争入札	第4四半期	橋面舗装3,000m ² (基層、 表層、橋面防水) 車道舗装5,400m ² (路床t=40cm、路盤、As安、 基層、表層)
18	北陸地整	富山河川国道事務所	下田立体橋舗装工事	公募型指名競争入札	第2四半期	橋面舗装3,760m ² (表層、レベ リング)車道舗装6,600m ² (表層、中間 層、基層、路盤、路体) 中分工600m 標識工1式

19	北陸地整	富山河川国道事務所	青木舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	L=2,800m 車道舗装38,300m ² 歩道舗装 7,100m ² 道路土工80,100m ³ 道路付属施設、情報BOX 1式
20	北陸地整	金沢河川国道事務所	麦ヶ浦舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	L=1,200m 本線舗装16,000m ² 中央帯工、排水工
21	中部地整	岐阜国道事務所	21号瑞穂地区道路拡幅工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	工事延長=1400m、土工 1式、 舗装工 1式、排水工 1式、防護 柵工 1式、函渠工 1式
22	中部地整	静岡国道事務所	139号北山地区登坂車線 建設工事	工事希望型 指名競争入札	第2四半期	登坂車線整備 工事延長L=1,000m 舗装工A=4 000平方m
23	中部地整	浜松河川国道事務所	1号中野町舗装工事	公募型 指名競争入札	第3四半期	工事延長=約1300 本線舗装A=3,000平方m 橋面舗装A=16,000平方m 排水構造物 1式、道路付属施設工 1式
24	中部地整	三重河川国道事務所	23号野田舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第1四半期	L=770m、本線舗装工1式、排水構造物1式、道路付属物 1式、床版工1式、その他
25	中部地整	紀勢国道事務所	大宮大台インター線道路 舗装工事	通常指名 競争入札	第1四半期	工事延長=650m、本線舗装工A=約3,000平方m、橋面舗装工A=約3 000平方m、排水工1式
26	近畿地整	兵庫国道事務所	春日和田山道路徳畑地区 舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	舗装工 A=19,000m ² 、情報ボックス工1式、防護柵工1式、路面排水工1式、道路付属物工1式
27	近畿地整	和歌山河川国道事務所	橋本道路橋本IC舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	排水性舗装 A=22 000m ² 、区画線 L=900m、ガードレール L=900m、情報管路 L=2 000m、標識設置 L=2 000m
28	中国地整	殿ダム工事事務所	殿ダム付替県道舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第2四半期	舗装L=3000m 表層(凍結抑制舗装) 上層(粒調碎石)15cm 下層(RC-40)15cm 縁石工ほか
29	中国地整	殿ダム工事事務所	殿ダム神護1号線舗装工事	通常指名 競争入札	第2四半期	舗装L=1000m 表層(凍結抑制舗装) 上層(粒調碎石)15cm 下層(RC-40)15cm 縁石工ほか
30	中国地整	浜田河川国道事務所	益田道路舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第2四半期	舗装L=800m 表層5cm 基層5cm AS安定8cm 上層(粒調碎石)15cm 下層(RC-40)20cm
31	中国地整	江の川総合開発工事事務所	林道暮石矢田線舗装工事	通常指名 競争入札	第3四半期	新設舗装L=1000m 表層(再生密粒度AS) 4cm 路盤 10cm
32	中国地整	広島国道事務所	西条バイパス三永舗装工事	通常指名 競争入札	第1四半期	AS舗装 L=700m 中間層、基層 5cm As安定 10cm 上層(粒調碎石) 15cm 下層(RC-40) 20cm
33	中国地整	山口河川国道事務所	厚狭・植生バイパス植生舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	AS舗装 L=1200m 表層(排水性舗装) 4cm 中間層 6cm 基層 5cm As安定 10cm 上層(粒調碎石) 10cm 下層(RC-40) 20cm
34	四国地整	香川河川国道事務所	平成17年度 岡田東舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第1四半期	アスファルト舗装L=600m
35	四国地整	大洲河川国道事務所	平成17年度 大洲道路舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第1四半期	工事延長 1,800m 排水性舗装 4 400m ² コンクリート舗装 3 300m ² 橋面舗装 1,200m ²
36	四国地整	大洲河川国道事務所	平成17年度 鳥越舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第2四半期	工事延長 840m As舗装10 000m ² 歩道舗装 700m ² 橋面舗装 600m ²

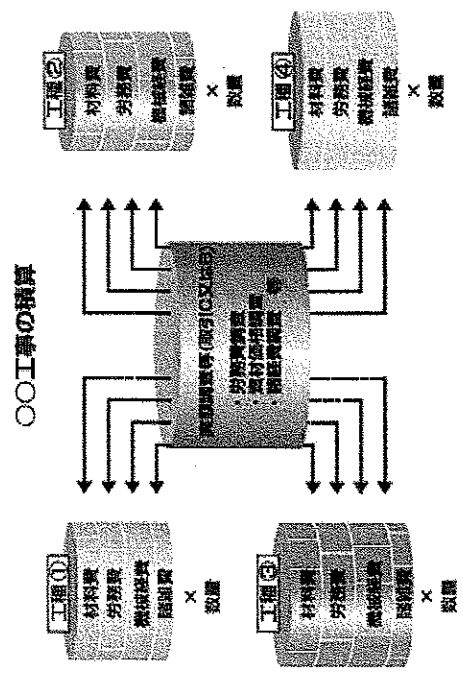
37	四国地整	松山河川国道事務所	平成17年度 拾町舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第2四半期	アスファルト舗装L=900m
38	九州地整	福岡国道事務所	福岡外環状道路 福大トンネル 舗装工事	工事希望型 指名競争入札	第3四半期	舗装工 一式
39	九州地整	北九州国道事務所	福岡10号二先地区舗装工事	通常指名 競争入札	第2四半期	舗装工 一式
40	九州地整	大分河川国道事務所	大分210号高瀬地区舗装工事	通常指名 競争入札	第2四半期	舗装工 一式(L=1 700m)
41	九州地整	宮崎河川国道事務所	宮崎10号花見池田地区 舗装工事	通常指名 競争入札	第3四半期	舗装工 一式(L=1 260m)
42	九州地整	延岡河川国道事務所	宮崎10号 小峰地区外 舗装工事	公募型 指名競争入札	第2四半期	舗装工 一式(L=1 000m)
43	沖縄総合 事務局	南部国道事務所	平成17年度与那原地区 (2工区)舗装工事	通常指名 競争入札	第2四半期	車道舗装3 000㎡(基層、表層)

(注)H17.5.31時点の予定工事

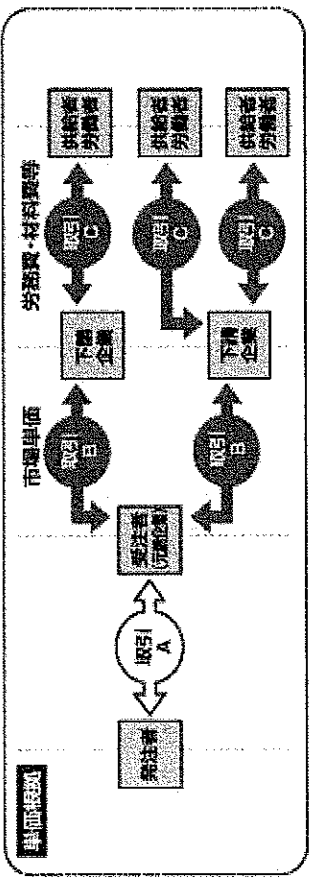
ユニットプライス型積算方式の概要

現行積算(積上)方式

これまでの積算方式は、各工事の各工種毎に、施工プロセスを想定し、必要な材料費・労務費などを一つずつ積み上げています。

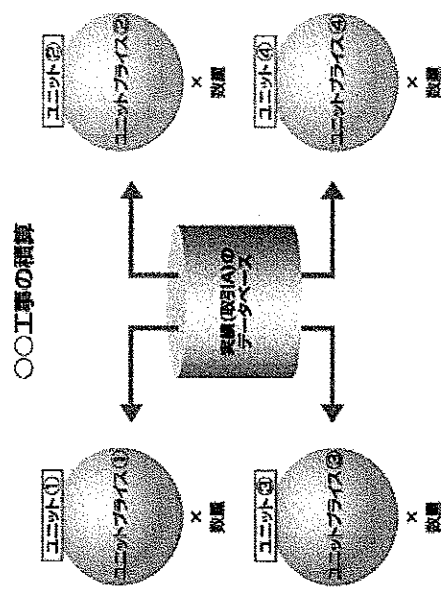


下請企業と材料等供給者・労働者との取引価格 (取引C又はB) を調査しています。

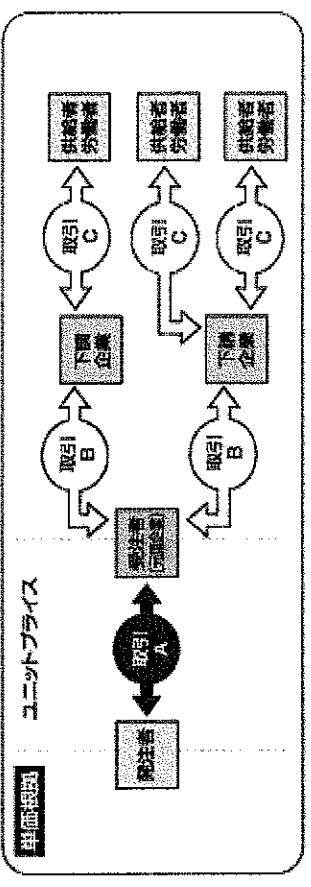


ユニットプライス型積算方式

新しい積算方式は、受注者(元請企業)と発注者が総価で契約した後、ユニット毎に合意した価格を、発注者がデータベース化していき、ユニット毎に実績のデータベースの単価(ユニットプライス)を用いて積算します。



発注者と受注者(元請企業)との取引価格(取引A)を蓄積・分析します。



ユニットプライス型積算方式への転換による効果

現行積算(積上)方式に対し、ユニットプライス型積算方式は、5つの効果が期待できます。

現行の積み上げ積算方式

下請企業と資機材供給者及び労働者との取引を聞き取り等により、労務単価・資材単価を調査

発注者が施工のプロセスを想定して作成した積算参考図書を示すため、受注者は創意工夫の意欲が低下

単価合意しないため、施工量が増減した場合等の契約変更額が不明確
発注者が必要と考える事項について条件明示するため、明示のない条件が変わった場合に變更協議が難航

直接工事費と間接工事費が別々となっているため、工事的物と価格との関係が不明確

積算業務や労務単価の調査に労力・時間がかかる

効果①

効果②

効果③

効果④

効果⑤

ユニットプライス型積算方式

価格の透明性、説明性の向上

発注者と受注者(元請企業)の取引価格をベースに、発注者が直接、施工単価(ユニットプライス)を調査

民間活力(創意工夫)の導入促進

想定した施工のプロセスを示さないため、受注者の技術力の活用や新工法の採用といった創意工夫の意欲が向上

契約上の協議が円滑化

総額契約単価合意をするため、施工量が増減した場合に、自ずと契約変更額が決定されるなど契約変更手続きが円滑
あらかじめ定められているユニットの条件を明示しているため、条件が変わった場合に變更協議が円滑

工事的物と価格の明確化

工種毎に直接工事費と間接工事費が一緒になっているため、工事的物と価格との関係が明確

積算業務の効率化

積算業務、労務単価等の調査の労力・時間が軽減する

積算段階

発注者は効率
業務効率が
上がります

施工段階

受注者はやりがい
努力が利益に
変わります

供用段階

国民は満足
良いものが適正な
価格で実現できます

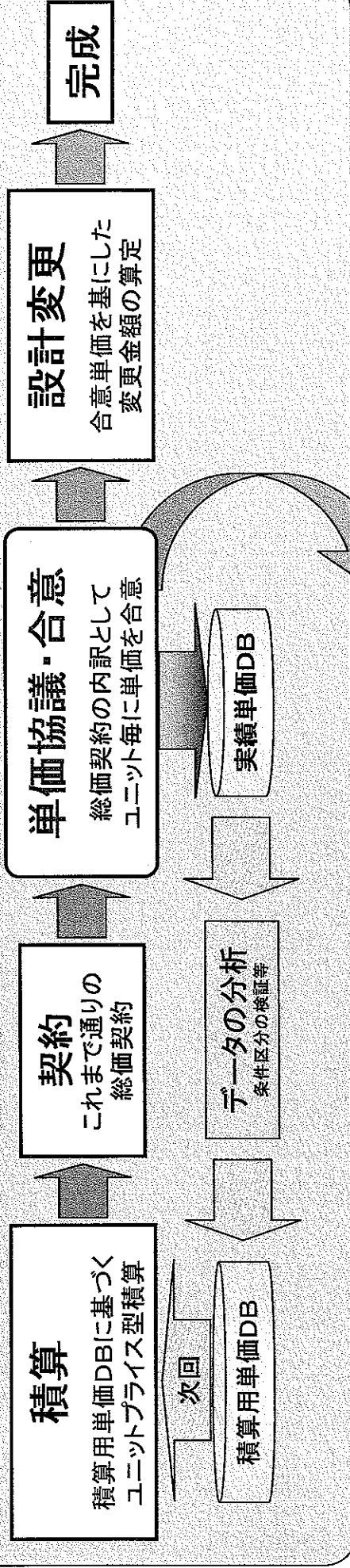
つまり、ユニットプライス型積算方式を導入すると

ユニットプライス型積算における契約 総価契約単価合意方式について

参考資料3

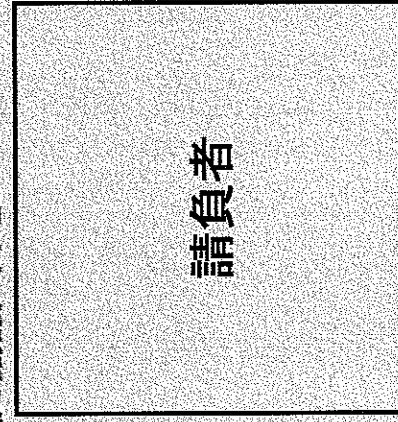
契約後、発注者と請負者間で総価の内訳としてユニット毎に単価の協議・合意を行う。

ユニットプライス型積算方式のフロー



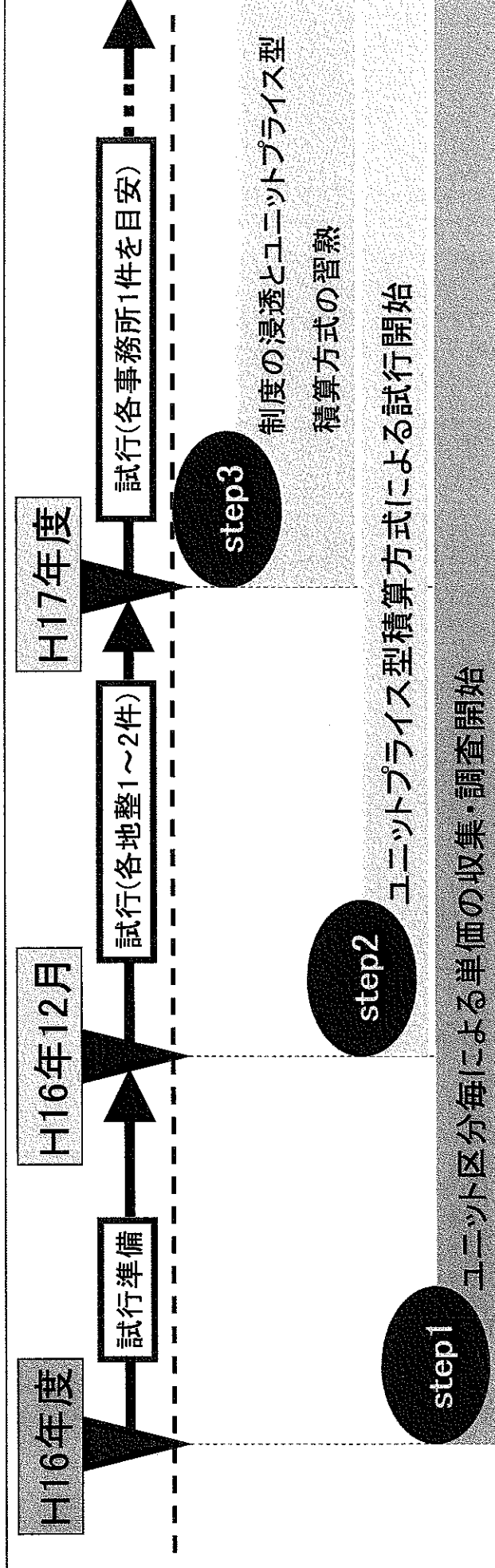
単価協議・合意のフロー

①ユニット請負代金内訳書



ユニットプライス型積算方式の試行スケジュール

当面は、直轄発注工事において、工事件数の多い工種（全体の約半数）である、舗装工、道路改良工、築堤・護岸工について試行を行います。



※ユニットプライス型積算方式の試行は舗装工から着手し、続いて道路改良工、築堤・護岸工と順次拡大していきます。

試行による確認事項

机上検討では想定出来ないケースがあり、問題が発生することが考えられたため、試行を通して課題を抽出・修正する。

- ①条件明示内容及び方法の検証
- ②補正方法の検証
- ③プライスの更新手法の確認
- ④妥当性検証方法の確認
- ⑤単価合意及び契約変更方法の確認
- ⑥積算手順の確認